

## 2-⑪八代農産物の商品力向上による産地強化（八代）

- ① 活動期間：平成20年度～22年度（2年目）
- ② 対象：いぐさ農家、トマト農家、JAやつしろドレミ館トマト加工研究会  
レタス部会、JAやつしろ果樹部会、晩白柚生産者

### ③ 現状及びニーズの把握

八代地域では、地域の特性を活かしたいぐさやトマト、露地野菜、地域特産果実の晩白柚等多くの品目が生産されている。しかし、消費の減少や価格の低迷傾向が見られる等、産地の活力も低下しつつあり、一層の産地強化が求められている。

いぐさでは、普通刈栽培用優良品種「ひのみどり」が普及し、平成19年度から早刈栽培用優良品種「夕凧」、20年度から遅刈栽培用優良品種「ひのはるか」の栽培が始まり、品種に応じた栽培技術の定着や加工技術の向上が求められている。

トマトでは、生産安定のための病害抵抗性品種の選定や「はちべえトマト」のブランド力強化を目指して一次加工品の生産及び販路拡大、オリジナル新商品の開発が求められている。また、八代の新たな野菜として露地野菜の栽培が増加しており、作型や気象条件に対応した品種の選定による産地銘柄の確立が求められている。

晩白柚では、認知度向上と販路拡大や新たな付加価値を見いだすための加工品の開発等が始められており、果実の生産安定と加工品の開発による一層の産地強化が求められている。

### ④ 到達点における普及対象の姿

いぐさでは新優良品種の普及による高品質量産生産、トマトでは病害抵抗性品種の普及による高品質トマトの生産安定、露地野菜ではレタスの生産拡大による新たな産地化、晩白柚では認知度向上による年内贈答品用出荷量増加により農家経営の安定化が図られる。また、トマトや晩白柚の加工品開発等による付加価値向上で商品力が強化される。

### ⑤ 普及指導等の内容

#### (ア) 課内の活動体制

チーフ：（園芸産地づくり支援班長）中河原主幹

チーム員：（担い手育成支援班）深嶋参事、尾方技師

（園芸産地づくり支援班）宮田参事、加久参事、本田主任技師

（いぐさ支援班）岡村参事

#### (イ) 関係機関との推進体制

活動に当たっては、八代市、氷川町、八代地域農業協同組合（JAやつしろ）、JAやつしろ各生産部会、JAやつしろドレミ館トマト加工研究会、氷川町ビストログリーンとの連携を図った。また、農産物加工では、産業技術センター、加工アドバイザーの協力を得た。

#### (ウ) 普及指導内容

- ・ 検討会、講習会の開催：現地検討会や栽培講習会等を開催し、生産安定技術や品質向上技術の普及を図った。
- ・ 展示ほの設置：いぐさ新優良品種栽培、トマト優良品種比較、レタス優良品種比較の各展示ほを設置し、栽培特性等を調査した。
- ・ 加工品開発支援：ドライトマトを利用した新商品試作、ドライトマト活用レシピ

の検討を行った。晩白柚ペーストを使用した新商品開発と商品化の検討を行った。

## ⑥ 活動の結果及び成果

- (ア) いぐさ：高品質量産生産と新優良品種の導入に対する意識が向上し、優良品種（「夕凧」、「ひのみどり」、「ひのはるか」）の普及率は、現況の75%から81%に増加した。
- (イ) トマト：葉かび抵抗性品種である「りんか409」が、出荷反省会、座談会などを通じて情報提供を行った結果、八代地域で72ha（農協共販分）の作付が行われた。
- (ウ) レタス：展示ほの調査結果から品種特性の把握を行い、品種選定に向けた基礎データとした。
- (エ) 晩白柚：人工授粉の徹底、適正着果の励行や気象条件により、年内出荷量が増加した。また、ウィルスフリー苗を果樹研究所で作出することとなった。
- (オ) 加工品開発支援：昨年開発した晩白柚ペースト技術を活用した商品が多く開発された。オレンジ会ではゼリー・シフォンケーキ、氷川町ビストログリーンでは農商工連携により「果もっち」が販売され好評だった。

トマト加工品は、ドライトマト、ピューレ、ケチャップの販売が好調で、八代地域農業協同組合により新たな加工施設が整備された。



いぐさ展示ほ調査



晩白柚加工品

## ⑦ 残された問題点と今後の方向

- (ア) いぐさ：優良品種の着実な普及推進と品種特性に対応した加工技術の定着とともに新産地表示システム（QRコード）の推進を図る必要がある。
- (イ) トマト：病害抵抗性品種の特性を生産者に広く周知するとともに栽培技術を普及定着する必要がある。また、厳寒期の品質向上、信頼度の高い出荷量予測、調理用等生食以外の用途開発による消費拡大を図る必要がある。
- (ウ) レタス：作型に対応した組み合わせ品種の選定と体系施肥技術の確立を図る必要がある。
- (エ) 晩白柚：着果促進や少量多かん水を行うことで年内出荷量の増大を図る必要がある。また、生産安定のためにウィルスフリー苗を作出するための母樹園設置が必要である。

### <コメント（関係者からの声）>

JA やつしろトマト加工研究会 会長 岩田美江子さん

八代産トマトのPRをお手伝いしたいと思い加工活動を始めました。お客様の顔を思い浮かべながら、生産者の皆さんが一生懸命育てられたトマトをおいしく味わっていただきたいという一心で頑張っています。今年は、新しい加工場が完成しましたので、新商品開発にも挑戦したいと思います。引き続き御支援いただきますようお願いいたします。



